

## 桂川の草原復元作業始まる。

4月12日（日）に、桂川の草原復元の作業が始まりました。ここは、河道掘削工事が行われオギの移植も行われましたが、オギの回復が十分ではありません。そこで良好な河川環境復元を目指して草原復元作業をすることにしました。桂川を拠点に活動をしている保全協会・畠理事の呼びかけで、保全協会・草地生態系研究会関係（9名）、地元乙訓の自然を守る会のメンバー（7名）、西日本草原再生ネットワーク（2名）など総勢で18名でした。天候不順の連続でしたが、当日はうす曇り、最高気温20℃（京都府）でほぼ平年並み、湿度50%と過ごしやすかった。草刈作業は、1台刈払機があったのと人数が多かったので昼過ぎには終了したものの、刈り取った草の処理のため500mほど離れた処分地まで運ばなくてはならなくて、畠さんの車を使って運搬を繰り返しました。そのため草を縛ったり運んだり結構時間を取られました。20×20mの実験区は3カ所作りしました。最終は4時までかかりましたが事故もなく予定をこなせて終わることができてヤレヤレでした。



朝のミーティング



作業の初めは実験区作り、20m四方も結構広い



早速、草刈り作業の開始です。



やっぱり機械の力は大きい！

当初、30m四方の実験区を考えていたのですが、作業量を考えて20m四方にしました。実際やってみて20m四方でも結構広いのが実感できました。30m四方でやっていたら刈り取った草の量やら運搬の手間でどうなった事やら・・・それにつけても動力物の力は大きい。刈払機様様でした。

刈り取った草をどう運ぶかは「難問」でした。当初、ゴミ袋に詰めてと考えてきましたが1回分の量や手間でダメとなり、結局小池さんの提案で、草を一定方向にまとめて積み重ねてPPロープで巻くという方式を取りました。うまくいったようです。現場で、ありあわせの道具を使い知恵を出すというのか、いやいや感心させられました。



刈り取った草を集めて、巻くようにしてPPロープでくくりました。



車で処分場まで。

猫の手どころか・・・倉光パワー全開です！

1カ所から15個前後の草の束ができたようです。畠さんは車で30回以上作業場と処分場を往復したようです。途中水たまりもあり、車は泥だらけになりました。それでも運びきれないので人力で15個近くは運びました。



処分場に集められた草の束の山。

きれいに刈り取られた実験地

帰りに土手の上から見た草をきれいに刈られた実験地。

←



なお、この事業は大阪自然環境保全協会の「2017年度特定自然保護活動推進資金」によって行われています。